

お茶による新型コロナウイルスの不活化効果があり、お茶製品の種類によって相異

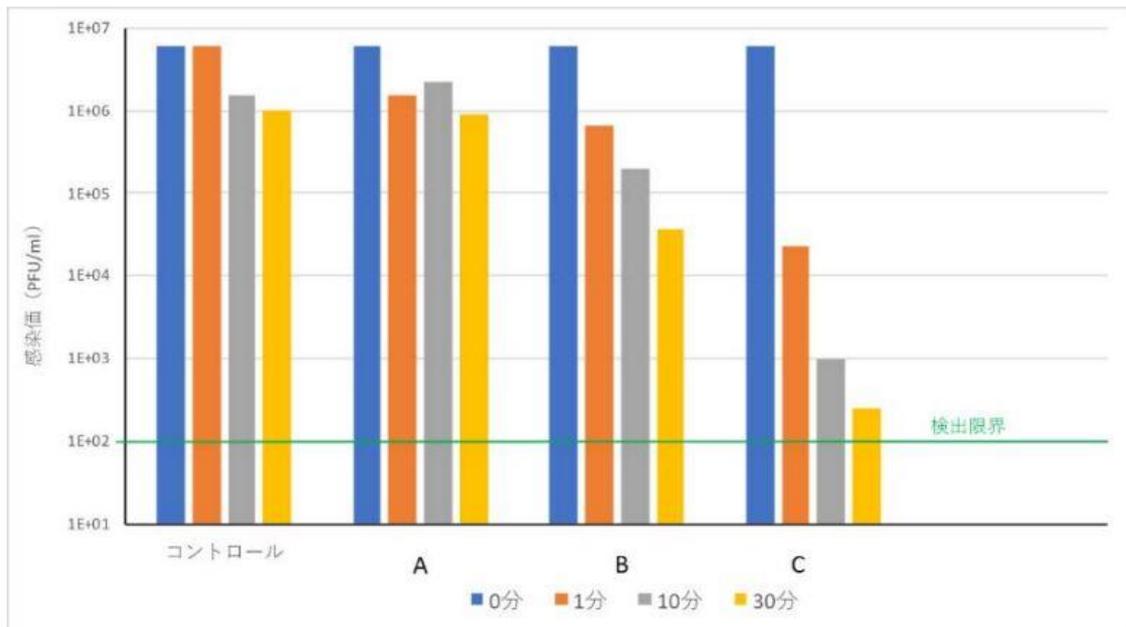
奈良県立医科大学(微生物感染症学講座 矢野寿一教授)はお茶による新型コロナウイルスの不活化を確認しました。お茶の種類や製品により不活化能が異なることを実験的に明らかにしました。

研究内容

市販されている A, B, C の 3 種類のお茶、及びコントロールとして PBS (リン酸緩衝生理食塩水) に 6.00×10^6 PFU/ml のウイルス感染価を示す新型コロナウイルスをそれぞれ 1:1 の割合で混合し、1 分、10 分及び 30 分静置しました。反応時間後、ウイルスを回収、培養細胞に接種し、プラーク法にてウイルス感染価を算出しました。なお全試験は、本学内のバイオセーフティレベル 3 (BSL3) の実験施設において、適切な病原体封じ込め措置のもとに行いました。

研究成果

3 種類のお茶を新型コロナウイルスに接触させると、 6.00×10^6 PFU/ml のウイルス感染価から、1 分後に A は 1.50×10^6 PFU/ml、B は 6.50×10^5 PFU/ml、C は 2.25×10^4 PFU/ml へ、30 分後に C は 2.50×10^2 PFU/ml (減少率 99.975%) まで減少し、高い不活化能を示すお茶とそうでないお茶がありました。



ウイルス感染価の推移

今回の研究成果をもとに、不活化効果が高いお茶が新型コロナ対策に寄与できる可能性が示されました。

なお、今回の研究では、お茶を飲むことによる感染予防効果の検証は行っておりません。

日本語リリース

<http://www.naramed-u.ac.jp/university/kenkyu-sangakukan/oshirase/r2nendo/documents/ochahp.pdf>